

## 8ヶ月ぶりのミンダナオ

—ラムブソン組合育成事業・出張報告—

森田奈美（事務局非常勤スタッフ）

皆さん、明けましておめでとうございます。

昨年、11月23日から12月1日に現地へ出張してまいりました。約8ヶ月ぶりのフィリピンは、つらいはずの山道さえ本当に楽しく、仕事に疲れていた私を癒してくれました。私にはあちらの時間の流れがまっているようです。

ところで、現地 CMB のトップの神父が、過去1年間に Fr.ノノイから、Fr.ポール、Fr.デオと替わった際の引継ぎが十分でないように思えること、また、キリスト教関係者の寄附金（基金）に対する考え方の日本政府や財団の求めているものとのズレ等、現地協力組織との関係を含めて、これからの私達 HANDS の活動のあり方をもう一度考えるときに来ているよう感じました。

アトゥモロックの校舎建て増しはやっと完成していましたが、作業の大幅な遅れを外務省にわかってもらうのは一苦労だと思います。企画書提出の時にはウエポンキャリアーが入っていった道も、現在はミアソンという村から2時間以上の山道を歩くしかなく、重いセメントや砂袋、屋根用の大きな G.1 シート（亜鉛鉄板）を村人や子どもたちが必死に持ち運ぶしか方法がないため、これに長い期間が費やされました。また、雨季に入って、午後のスコールの際には仕事になりませんし、村人たちが自分たちの畑に行かなくてはならない時は、どうしても校舎の方まで手が回らなかつたりもして予定よりも3、4ヶ月も遅れてしまったという訳です。日本に居てはこれとはとても想像しにくいことです。日本では、雨にぬれても家で温かいお風呂に入れますが、むこうでは水道も各家にはなく、着替えさえない人も居ます（アトゥモロックは山奥なので朝・夕はかなり冷えます）。そして、普段から質素な食事をしている分、病気になりやすく、医者も薬もない村では大変です。子どもたちの教育は、今のこのフィリピン社会で生き抜くためには必要であるとわかってはいても、今日食べるものがあるか、という方が重要な生活では、校舎建設にもっと労働奉仕をととは言えません。私の滞在中にアトゥモロック小学校4年生の女の子がジェネラルサントスの病院に入院していましたが、2年以上も医者にかかるのを先延ばしにしていたせいでかなり悪くなっており、手術のかわりに亡くなってしまいました。フィリピンではお金のない人が入院の必要な病気にかかったら致命的です。お金を払わないとどんなに重症でも医者は手術をしてくれません。おとしの夏、私が現地でA型肝炎にかかった際、血液検査だけでも1万円以上とられ、私でさえ「こんなにとられるなら検査なんかするんじゃないか」と思ったほどです。だから、病院行きを伸ばし伸ばしにしてしまう気持ちはとてもよく分かります。たとえそれが今回のように命を失う結果となっても。

HANDS の医療支援は現地にとって大きな助けとなっています。依存しない体制にするため98年の半ばより1日1ペソのお金を住民から集めて医療基金としていましたが、「病気にならない自分がどうして毎日払わなくてはいけないのか？」とシステム理解が足りなく、一部では機能していませんでした。医療担当のルーイ神父も、払っているエリアと払っていないエリアの人々を同等に扱うのはどうかと思うし、かと言って重病人はほっておけないし、と考えていました。

現在、アトゥモロックには5人の先生がとても安い給料（公立小の3分の1から5分の1）にもめげずに、子どもたちに勉強する喜びを伝えるため頑張っていますが、住民たちの考え方を变えるまでには至っていません。また、3人のCMB担当神父のうち、2人は遠隔地のキアミとモンゴカヨにそれぞれ手いっぱい状態で、ここには月に一度も神父が来ないこともあり、2年前のような活気がないのも事実です。アトゥモロックは他のエリアに比べて幻想的な雰囲気のある木々の多いエリアです。農業組合員のほとんどが大きな畑（斜面ですが）を持っていますし、なんとかこの困難な状況を抜け出すよう道を切り開いて欲しい、と思っています。

一つ嬉しいお知らせは、HANDS 支援の外務省 NGO 補助金事業により完成した校舎のおかげで（設計図どおりのとても美しい校舎でした）DECS（日本の文部省？）

認可の手続きが順調にいったいて、3月には認可が受けられる見通しだそうです。

ラブソンの組合状況はますますといったところで、コーンシェラーも機能していて助かっている様子でした。組合出資の小さなお店（サリサリストア）では、日用必需品が売られており、住民たちもわざわざ往復3時間かけて山の下まで買いに行かなくて済む有難さを語ってくれました。

マリオ先生は、本当に前向きで明るい青年という感じのピラーン人（ポルルール出身）で、現在このラブソンでは欠かせない人ですが、彼を中心に植林さ



学校帰りに水浴するサムラングの子ども